

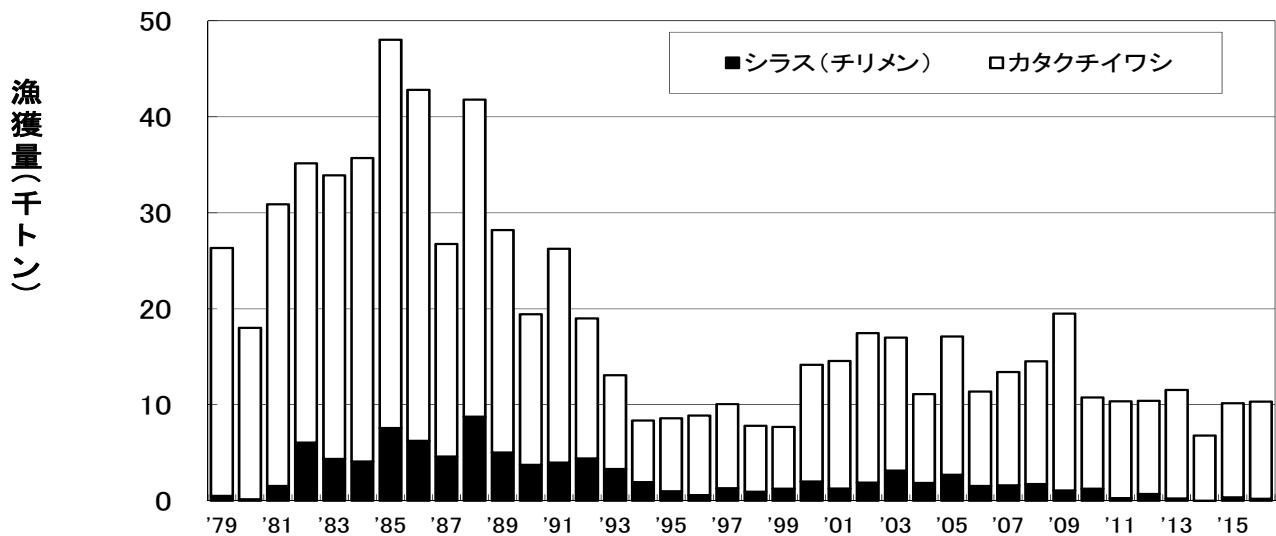
平成28年度 燧灘カタクチイワシ資源管理の取組

1. 操業状況



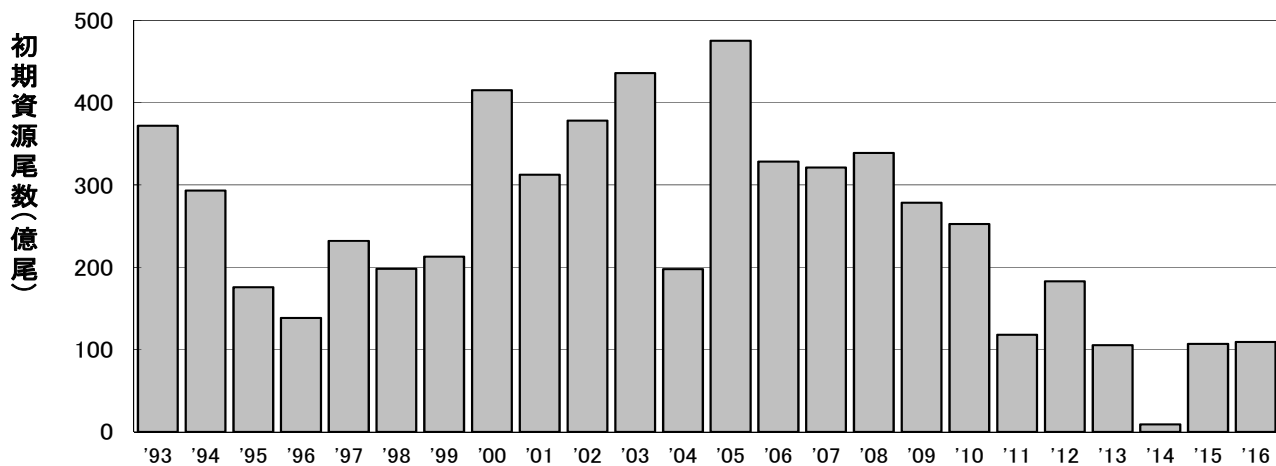
2. 燧灘カタクチイワシ資源状況

(1) 燧灘カタクチイワシの漁獲量の動向



(資料) カタクチイワシ瀬戸内海系群(燧灘)の資源評価より

(2) 燧灘カタクチイワシの初期資源尾数の動向



(資料) カタクチイワシ瀬戸内海系群(燧灘)の資源評価より

(3) 資源状況考察

広島、香川、愛媛の3県水産試験研究担当者の資源解析によると、燧灘におけるカタクチイワシ漁獲量は10,319トンで、昨年に続き低水準の漁獲となった。特に、シラス(チリメン)については、今年伯方島における1~3月の積算水温が1,050℃を超え早期産卵が見られたため、早期からの漁獲が期待されたが結果としては不漁であった昨年並であり、ここ数年は不漁となっている。

また、6月1日時点での資源尾数(初期資源尾数)については109.2億尾と試算され、春季発生群のうち、漁獲される尾数の割合は近年80~90%の間を推移していたが、今年は70.4%であった。

以上のことを踏まえ、親魚を含めたカタクチイワシ資源の水準は低位、動向は横ばいである。